

第23回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年7月8日（火） 午後7時00分～9時00分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：50名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬） 武田 佳登（練馬） 湯山 茂（練馬） 宿澤 藤子（杉並）
 土肥 紀久（杉並） 濱本 勇三（武蔵野） 村田 あが（武蔵野） 新 守一（三鷹）
 富澤 和也（三鷹） 樋上 寛（三鷹） 遠藤 好照（調布） 川原 徳重（調布）
 渡辺 俊明（調布） 橋本 妙子（狛江） 秋山 光男（世田谷） 江崎美枝子（世田谷）
 栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

平野 和範（練馬区部長） 菱山 栄二（杉並区部長） 塩沢 忠彦（武蔵野市部長）
 柴田 直樹（三鷹市部長） 新谷 景一（調布市部長） 大川 宗男（狛江市部長）
 栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）
 道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

【生活に与える影響】

- ・青梅街道インターチェンジの設置について、渋滞、環境の劣悪、立ち退き、分断、善福寺池の枯渇の恐れなどから反対要望をした。また、地上部分の道路についても地元住民の意向を無視しており、反対要望をした。
- ・地元で独自に二酸化窒素の測定を行った結果、青梅街道沿いは高い数値を示している。
- ・生活に与える影響を検討するにあたり、将来人口や財政状況を考慮する必要がある。
- ・生活に与える影響を議論するためには、交通量のデータは欠かせない。また、交通量のデータを示すときは、料金体系を考慮する必要がある。
- ・ジャンクションにインターチェンジを併設する形になれば、中央ジャンクションは非常に大きな影響を与えるものと考えられる。できるだけ地元に影響が及ぼさないよう検討すべき。
- ・交通量のデータは、効果を議論する前に出すことになっているが、影響の議論も交通量のデータが必要であるため、また影響の議論に戻るべき。
交通量についてシュミレーションした結果を資料提出する。その際、前提条件についても説明していく。
- ・中央道との接続について、現状の考え方でなく、現在の中央道の区域の中で接続を考えることはできないか。
- ・ICの決定については、住民の意向を真摯に考えていただきたい。
- ・大深度区間の補償について検討すべき。また、移転先としてまとまった代替地の検討もすべき
- ・都市計画決定時のルート決め方は不満。どこの場所が一番適当か2、3回議論すべき。
- ・地上のルートを動かすことは不可能と考えている。今の段階ではルートの説明でなく、住民が求めていることに対する対応方針を示す時期にきているのではないか。
- ・ルートは、東名以南も含めて議論すべき。
- ・地下水の水道については、聞き取り調査をするなどの対応が必要である。
補償については、もう少し先の段階ですべきと考えている。
ルートについては、JCTの位置をベースに考えていきたい。

【交通政策】

- ・人口分布の変遷と交通政策をどう関連づけていくのか。また、鉄道と道路の関連性をどう考えるのか。
- ・環状メガロポリス構想は、車の構想でしか無いような気がするが、どうか。
- ・交通や環境、物流などの対策により、まちに対する負荷が少なくなるよう総合的に考えている。
- ・東京都の交通政策の中で外環がどう位置づけられているか説明すべき。

【その他】

- ・今後の議論は、ひとつひとつ結論を出していくように進めていくべき。
- ・国や東京都が出す資料は、事前に配付すべき。
- ・オープンハウスで出された意見や、実施したアンケートの結果について報告すべき。